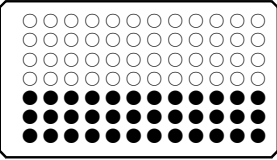


単元	I 折れ線グラフと表		4, 5月(9時間)	
目標	折れ線グラフや二次元表の表し方や資料の特徴の読み取り方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：D(1)ア(イ)イ】	
評価規準	(①知・技)折れ線グラフの特徴とその使い方を理解し、グラフ用紙の大きさや目的に応じて適切な折れ線グラフをかいたり、読んだりしている。 資料を2つの観点から分類整理し、表を用いて表したり、読んだりしている。 (②思・判・表)折れ線グラフや二次元表において、資料の特徴や大まかな傾向を考えたり表したりしている。 (③主体的態度)変化の様子を折れ線グラフや二次元表に表したり、折れ線グラフや二次元表から資料の変化の様子を読み取ったりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○月ごとの気温の変化の様子の表し方を考え、折れ線グラフを知り、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 折れ線グラフや表をつかって、資料を分かりやすく整理しよう	○折れ線グラフや表を用いた、資料の整理の仕方について関心をもてるように、棒グラフや折れ線グラフ、表の枠がかかれた学習プリントを用意する。	◇資料の変化の様子を分かりやすく表したいという思いを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
	解決していく	○2つの事象の変わり方が表された折れ線グラフについて読み取る。 ○折れ線グラフの表し方を知り、気温の変化の様子を表す。 ○波線でグラフを省略する方法を知り、縦軸の目盛りに着目して変化の様子が見やすい折れ線グラフの表し方を考える。 ○折れ線グラフ(気温)と棒グラフ(アイスクリームの売り上げ)を組み合わせたグラフを読む。 ○校内のけが調べの資料から、2つの観点を選んで分類整理し、2次元表のよさを考える。 ○いろいろな場面の資料を2次元表に表し、その特徴を読み取る。	○2つの事象の変わり方を1つのグラフ用紙に表すと資料の特徴が分かりやすくなることに気付けるように、2つの事象がばらばらなグラフ用紙と1つにまとまったグラフ用紙を提示する。 ○折れ線グラフに表すことができるように、目盛りを表す単位や表題の枠がかかれた学習プリントを用意する。 ○縦軸の目盛りの取り方によって変化の様子が変わること気付けるように、2種類の目盛りの取り方が異なるグラフを提示する。 ○折れ線グラフと棒グラフを組み合わせたグラフのよさに気付けるように、折れ線グラフと棒グラフを組み合わせた資料とそうでない資料を用意する。 ○2次元表のよさに気付けるように、1次元表と2次元表を並べて提示する。 ○落ちや重なりがなく正確に2次元表に表せるように、合計の項目がかかれ資料や2次元表を用意する。	◇2つの事象の変化の様子を1つのグラフ用紙に表すことで2つの資料の差や特徴がわかりやすくなることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②> ◇資料を折れ線グラフに表している。 <学習プリント①> ◇変化の様子を大きくするには縦軸の目盛りの間を小さくすればよいことを記述している。 <学習プリント②> ◇折れ線グラフと棒グラフを組み合わせると、2つの量の関係を捉えやすくなることについて記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②> ◇より詳しく資料を読み取れるといった2次元表のよさを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②> ◇資料の合計と2次元表に表したそれぞれの合計が同じになっていることを確かめている。 <学習プリント①>
まとめる	1	○健康カードを基に、1年生から測定してきた身長と体重の変化の様子を一つのグラフ用紙に表し、その特徴を読み取る。	○縦軸の目盛りや波線などを進んで工夫できるように、グラフ枠の入った学習プリントを用意したり、グラフのかき方を例示したりする。	◇自分の身長と体重の変化の様子を進んで折れ線グラフにまとめている。 <学習プリント③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「折れ線グラフ」「たてのじく」「横のじく」「表題」				

単元	2 わり算の筆算		5月(9時間)
目標	2・3位数を1位数でわる除法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(3)ア(7)(イ)(ウ)(エ)イ】
評価 規準	(①知・技) 2・3位数を1位数で割る除法の計算の仕方、筆算の意味や筆算の仕方を理解し、計算している。 (被除数)=(除数)×(商)+(余り)の関係を用いて、除法の確かめをしている。 (②思・判・表) 既習の除法の計算を基に、2・3位数を1位数で割る除法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 2・3位数を1位数で割る除法に関心を持ち、計算しようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○色紙を3クラスで分ける計算の仕方を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 大きな数のわり算の計算の仕方を考えよう	○被除数が3桁までの除法に関心がもてるように、90枚や900枚の色紙を3クラスに1枚ずつ分ける場面を演示する。 ◇進んでノートに図や絵などをかいて、答えを求めている。 <ノート③>
解決していく	1	○ $46 \div 2$ のような繰り下がりのない除法の計算の仕方を考える。	○被除数を位ごとに分けて考えられるように、10のカードと1のカードを提示する。 ◇被除数を位ごとに分けて計算すればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ $72 \div 3$ のような繰り下がりのある除法の計算の仕方を考え、筆算の仕方を知る。	○十の位の余り1を10とみることに気付けるように、10枚1束の束カードを用意する。 ◇十の位の余り1をばらして計算すればよいことを記述している。 <ノート②>
	1	○和、差、積、商の意味を知り、 $87 \div 7$ のような余りのある除法の計算の仕方を考え、除法の答えの確か	○除法の答えを確かめられるように、束カードを用いて $87 \div 7$ の場面を演示する。 ◇(被除数)=(除数)×(商)+(余り)をして、除法の答えを確かめている。 <ノート・発言①>
	1	○ $82 \div 4$ や $59 \div 8$ のような商の一の位が0になったり、商が1位数になったりする除法の計算の仕方を考える。	○商の一の位の0が立つことや商が一の位から立つこと根拠を説明できるように、商の立て方に誤りがある筆算の仕方を例示する。 ◇余りが除数より小さい場合は、商の一の位に0が立つことや、被除数の十の位が除数より小さい場合は、商が一の位から立つことを記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○ $739 \div 3$ 、 $2538 \div 4$ のような被除数が3、4位数の除法の計算の仕方を考える。	○被除数が3、4位数の場合の計算を正確にできるように、(2位数)÷(1位数)の計算の仕方を提示する。 ◇被除数が3、4位数の場合の計算を正確にしている。 <ノート①>
・まとめ かめ する	1	○休み時間を使って、学級で1000羽の折り紙をつくる日数を考える。	○条件を決めて、除法を活用して問題解決をできるように、1羽の鶴を折るのにかかる時間、鶴を折ることができる時間、学級の人数などの条件を話し合う時間を設定する。 ◇友達の合意を得ながら、進んでわり算を活用し、鶴を折る日数を求めている。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。	◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>

単元	3 角度		5月(9時間)	
目標	角の大きさの測定の仕方や角のかき方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：B(5)ア(ア)(イ)イ】	
評価規準	(①知・技) 量としての角の意味、角の大きさの測定の仕方やかき方を理解し、測定したりかいたりして。 (②思・判・表) 既習の量と測定の考えを基にして、角の大きさを普遍単位の幾つ分として考えている。 (③主体的態度) 角の大きさについて関心を持ち、進んで測定しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○紙にかかれた大きさの異なる鳥のくちばしの大きさを比べ気付いたことを話し合い、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 角の大きさの表し方や測り方を考えよう	○進んでくちばしの開き具合を比べられるように、切ったり折ったり重ねたりするくちばしカードを用意する。	◇くちばしの部分を切って重ね合わせたり、別の紙に写しとったり、三角定規の角を基にしたりして、くちばしの開き具合の大きさを比較しようとしている。 <行動③>
解決していく	1	○角の大きさの比べ方を考え、角の大きさの意味や角の大きさの単位である「度(°)」, 1~4直角を知る。	○「度(°)」の普遍単位のよさに気付けるように、長さ(cm)やかさ(L)の測定の場面を提示する。	◇普遍単位で表すとどんな角でも比べられるというよさを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○分度器の仕組みを知り、劣角(鋭角や鈍角)の大きさを測定する。	○劣角の大きさを正確に測定できるように、分度器の使い方を例示し、向きを変えた複数の劣角を提示する。	◇分度器を使って劣角の大きさを正確に測定している。 <ノート・行動・発言①>
	1	○優角の大きさの測定の仕方を考える。	○2直角と残りの角を加える方法や4直角から余りの角を引く方法に気付けるように、1直角カードや2直角カードを用意する。	◇1~4直角を基にして、足りない部分の角を測って加えたり、不要な部分の角を測って引いたりすればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○2種類の三角定規の角の大きさを測り、それらを組み合わせさせてできる角の大きさを調べる。	○三角定規の角度を基にしていろいろな角の組み合わせ方に気付けるように、2つの角を併せた角や1つの角からもう1つの角を引いた角を例示する。	◇三角定規の角を用いて立式し、角の大きさの求め方を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○優角のかき方を考える。	○2直角や4直角を基にした優角のかき方に気付けるように、劣角のかき方を例示し、2直角カードや4直角カードを用意する。	◇2直角や4直角を基にして考え、分度器を1回使えば優角がかけられることを記述している。 <ノート②>
・ま生とかめする	1	○分度器を使って、身の回りのもののいろいろな角の大きさを測定する。	○使う道具を工夫して三角形を作図できるように、定規や分度器、コンパスのそれぞれの働きを提示する。	◇様々な場所の角の大きさを測ったりノートに記録したりしている。 <行動・ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。	○進んで身の回りの角を見つけて記録できるように、記録表の入った学習プリントを用意する。	◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「度(°)」 「1直角=90°」 「角度」				

単元	4 1億より大きい数		5・6月(10時間)
目標	千兆までの整数の表し方を考え、十進位取り記数法についての理解を深める。		【指導事項：A(1)ア(ア)イ】
評価規準	(①知・技)「和」、「差」、「積」の意味や千兆までの整数の表し方を理解している。 桁数の多い乗法の計算の仕方や末尾に0がある数の乗法の工夫の仕方を理解し、計算している。 (②思・判・表)既習の数の仕組みを基に、千兆までの整数の表し方を考えたり、桁数の多い乗法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度)数の十進構造に関心をもち、千兆までの整数を表そうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○都道府県の人口ベスト5(千万までの数)を基に、日本の人口(一億までの数)を予想し、その読み方について考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 千万より大きい数について考えよう	○一億の位まである数を自分なりに表せるように、千万までの人数である「都道府県の人口ランキング」資料を提示する。
解決していく	1	○日本の人口を基にアメリカや世界の人口を予想し、億の位までの整数の読み方や表し方を考える。	○億の位までの整数を正確に読んだり表したりできるように、位取り表の拡大図を提示する。
	1	○一億の10倍、100倍、1000倍の数を考える。	○億の位も十進構造になっていることを確認できるように、10億の束カードを提示する。
	1	○生活に使われた一年間の水の量から「兆」という単位を知り、千兆までの整数の読み方や表し方を考える。	○4桁区切りで大きな数を読めるように、区切った場合と区切らない場合とを並べて提示する。
	1	○一億や一兆などを単位としてその10倍、100倍、1/10の数を考える。	○整数が十進位取り記数法によって表されていることを理解できるように、10倍、100倍、1/10した数を縦に並べられる位取り表を提示する。
	1	○13桁の整数で□番目に大きい数や◇番目に小さい数を考える。	○0～9の10個の数を言えばどのような大きさの整数でもつくれることに気付けるように、0～9までの数字カードを用意する。
	1	○3位数×3位数の計算の仕方を考える。	○既習の乗法の筆算を基に、3位数×3位数の筆算を計算できるように、2位数×2位数の筆算を提示する。
まとめる	1	○0～9までの数字を1回ずつ使ってできた、最も大きな数と小さな数の和や差を考える。	○位を意識して、当てはまる数を選んで進んで選べるように、0～9までの数字カードを用意する。
	1	○まとめのテストを行う。	
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇既習の千万までの数の仕組みを基に、一億の位を進んで表そうとしている。 <ノート・行動③>
			◇億の位までの整数を正確に読んだり表したりしている。 <ノート・発言①>
			◇億の位も、一、十、百、千が繰り返され、4桁ごとに新しい位が取り入れられていることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
			◇千兆の位までの数を4桁ごとに区切り、正しく読んだり表したりしている。 <ノート①>
			◇大きな数を10倍すると位が1けた上がることや10で割ると位が1けた下がる根拠を記述したり、説明したりしている。 <ノート・発言①>
			◇0～9の10個の数を言えばどのような大きさの整数でもつくれることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
			◇2位数×2位数の筆算の仕方を基に、3位数×3位数の計算の仕方について記述している。 <ノート①>
			◇末位に0があるときは、0以外の数を先に計算してもよい根拠を記述している。 <ノート②>
			◇カードを操作して、進んで10桁の整数をつくっている。 <カード③>
			◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・「都道府県の人口ランキング」のHP資料をカリ管データサーバに保存してあるが、変動的なデータなので、適宜更新していく必要がある。 ・数に対する感覚を豊かにするために、様々な大きさの数を位ごとに分けた部屋におはじきを並べて表したり、数直線上に表したりするとよい。(第2時～第5時)			

単元	5 式と計算		6月(8時間)	
目標	数量の関係を簡潔に式に表し、四則について成り立つ性質を用いた計算の工夫の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(6)ア(7)(イ)(ウ)イ】	
評価規準	(①知・技)()の意味や四則混合している式の計算順序を理解している。 四則に成り立つ性質を活用し、工夫して計算している。 (②思・判・表)数量の関係を1つの式に表したり処理したりする方法を考えている。 (③主体的態度)()を用いて1つの式に表すことよさが分かり、計算順序のきまりを用いて計算の仕方を工夫しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○買い物の残金の求め方について、加減混合の二段階の式($b+c=d$, $a-d$)を立てて考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 計算の順序に気を付けて計算の工夫の仕方を考えよう	○計算の順序に関心をもてるように、500円で2つの食品を買っておつりを求める場面を提示する。	◇自分なりに式を立てて、答えを求めようとしている。 <行動③>
	解決していく	○加減混合の二段階の式($b+c=d$, $a-d$)を1つの式に表す方法を考える。 ○四則混合の二段階の式($a \times b=c$, $d+e=b$)を1つの式に表す方法を考える。 ○四則混合の二段階の式($b \times c=d$, $a-d$)を1つの式に表す方法を考える。 ○アレイ図に示された○を工夫して計算する方法を考える。 ○計算法則を用いて計算練習をする。	○()の中をひとまとまりと見て先に計算することに気付けるように、第1時の食品の図やルールを提示する。 ○乗法より先に()の中を計算することに気付けるように、加法と乗法それぞれの問題場面を表した言葉や図を提示する。 ○乗除の()を省いてもよいことに気付けるように、()がある場合の式と()がない場合の式を提示する。 ○分配法則に気付けるように、○や●のように色分けしたアレイ図を用意する。(右図)  ○計算法則の使い方に気付けるように、計算法則を○, △, □でまとめたものを提示する。	◇()の中をひとまとまりとみて先に計算すればよいということを記述している。 <ノート②> ◇乗除法より先に()の中を計算すればよいということを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇乗除の()を省いてもよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇アレイ図に示された○の総数を求める式は複数あることを記述している。 <ノート②>
・ま生とかめする	1	○ $4\square3\square2\square1$ の□に+, -, ×, ÷のどれかを入れたり,()を使ったりして、答えが1~9までの式をつくる。 ○まとめのテストを行う。	○進んで立式しながら考えられるように、答えが0となる式($4-3$) - ($2-1$)を例示する。	◇進んでいろいろな式を立てて求めようとしている。 <ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】				

単元	6 垂直, 平行と四角形		6, 7月(15時間)	
目標	直線の垂直や平行の位置関係に着目して, 台形や平行四辺形, ひし形の特徴について考え, 進んで生活や学習に活用する。		【指導事項: B(1)ア(ア)(イ)イ】	
評価 規準	(①知・技) 垂直や平行, 台形, 平行四辺形, ひし形の意味や性質を理解し, 図形を弁別したり, 垂直, 平行な直線や平行四辺形, 台形, ひし形を作図したりしている。 (②思・判・表) 構成要素に着目して, 台形や平行四辺形, ひし形の特徴について考えている。 (③主体的態度) 既習の図形の性質を基に, 直線の垂直や平行, 台形, 平行四辺形, ひし形の特徴を調べようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○点と点をつなぐ4本の直線をひいて作った四角形を仲間分けし, 単元のためてをつかむ。 単元のためて いろいろな四角形の特徴を調べよう	○進んでいるいろいろな四角形を仲間分けできるように, 縦, 横5点ずつかかれたドット図の中に作られた複数の四角形を提示する。	
	1	○自分なりの根拠をもって, 四角形の仲間分けをしている。 <学習プリント・行動③>		
解決していく	1	○「垂直」を知り, いろいろな直線の中から垂直な直線を見付ける。	○垂直な直線に気付けるように, 1組の三角定規を用いた垂直の表し方を例示する。	◇1組の三角定規を当てて, 垂直である根拠を発言している。 <発言②>
	1	○垂直な直線の作図の仕方を知り, 1組の三角定規を用いて作図する。	○垂直な直線を正確に作図できるように, 垂直な直線の基となる縦, 横, 斜めなどの直線を提示する。	◇基となる直線に三角定規を当てて, 垂直な直線を作図している。 <学習プリント①>
	1	○「平行」を知り, いろいろな直線の中から平行な直線を見付ける。	○平行な直線に気付けるように, 1組の三角定規を用いた平行の表し方を例示する。	◇1組の三角定規を当てて, 平行である根拠を発言している。 <発言②>
	1	○平行な直線の作図の仕方を知り, 平行な2直線の幅について調べる。	○平行な2直線の幅と垂直な直線とを関係付けられるように, 平行な2直線の間の垂直な直線を複数提示する。	◇平行な2直線の間の垂直な直線の長さが一定であることを記述したり, 発言したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○1組の三角定規を用いて, 平行な直線を作図する。	○平行な直線を正確に作図できるように, 平行な直線の基となる縦, 横, 斜めなどの直線を提示する。	◇1組の三角定規を当てて, 平行な直線を作図している。 <学習プリント①>
	1	○平行な2直線に他の直線が交わってできる角の大きさについて調べる。	○平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることに気付けるように, 「等しい角度」という視点を提示する。	◇平行な直線は他の直線と等しい角度で交わることを記述したり, 発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
	1	○第1時に作ったいろいろな四角形を仲間分けし, 「台形」と「平行四辺形」を知る。	○台形と平行四辺形とその他の四角形に仲間分けできるように, 「平行」という視点を提示する。	◇平行な辺の数に着目して, 仲間分けの根拠を記述したり, 説明したりしている。 <学習プリント・発言①>
	1	○平行な2直線を用いた台形と平行四辺形の作図の仕方を考える。	○平行な2直線を用いた平行四辺形の作図の仕方に気付けるように, 平行四辺形の定義や平行線の作図方法を確認する時間を確保する。	◇平行な2直線に交わる別の平行な2直線をかけばよいことを記述したり, 発言したりしている。 <学習プリント②>
	1	○平行四辺形の特徴を調べる。	○平行四辺形の向かい合う辺や角についての性質に気付けるように, 「辺の長さ」や「角の大きさ」という視点を提示する。	◇平行四辺形の向かい合う辺の長さが等しいことや向かい合う角の大きさが等しいことを記述している。 <学習プリント②>
	1	○平行四辺形の作図の仕方を考える。	○平行四辺形の定義と向かい合う辺や角についての性質の理解を深められるように, 作図した平行四辺形の根拠を確認する時間を確保する。	◇作図の根拠として, 平行四辺形の定義や性質を記述している。 <学習プリント①>

	1	○ひし形を知り，ひし形の作図の仕方を考える。	○ひし形の定義と向かい合う辺や角についての性質の理解を深められるように，作図したひし形の根拠を確認する時間を確保する。	◇作図の根拠として，ひし形の定義や性質を記述したり，説明したりしている。 ＜学習プリント・発言①＞
	1	○対角線を知り，いろいろな四角形の対角線の特徴を調べる。	○いろいろな四角形の対角線についての性質に気付けるように，2本の対角線の長さや交わり方の項目の入った表を用意する。	◇対角線に着目して，四角形の対角線の性質について記述したり，発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
・ま 生と かめ する	1	○台形や平行四辺形，ひし形で平面を敷き詰めて，図形の性質を調べる。	○平面の広がりやできる模様的美しさに気付けるように，台形や平行四辺形，ひし形のカードを複数用意する。	◇進んで図形を敷き詰めて新たな図形を作ったり，その特徴を見付けたりしている。 ＜学習プリント③＞ ◇6割以上の問題について，正答を出している。 ＜テスト①②＞
	1	○まとめのテストを行う。		

【備考】

- ・用語・記号 「垂直」「平行」「台形」「平行四辺形」「ひし形」「対角線」
- ・準備物 三角定規，分度器，コンパス

単元	7 がい数		8, 9月(11時間)	
目標	目的に応じた概数の表し方や概数を用いた和差積商の見積もり方を理解し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(2)ア(7)(1)(ウ)イ】	
評価規準	(①知・技) 概数の意味や概数が用いられる場合、概数の求め方や概算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 目的に応じて切り捨てて見積もったり、切り上げて見積もったりする必要性を判断している。 (③主体的態度) 概数に表すよさに気づき、目的に応じて概数を用いようとしたり、和差積商を概数で見積もろうとしたりしようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
つかむ	1	○新聞記事の見出しの数の表し方を調べ、正確な数の表し方とおよその数の表し方のよさを考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて がい数について知り、およその数の表し方について考えよう	○およその数を表す概数のよさに関心をもてるように、新聞記事の中から正確な数で表されている部分と概数で表されている部分を提示する。	◇概数で表すよさを自分なりに記述したり発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○「概数」、「四捨五入」の用語の意味と四捨五入の仕方を知り、県内の市(前橋、伊勢崎)の人口を概数で表す方法を考える。	○四捨五入する位によって異なる概数になることを理解できるように、いろいろな位で四捨五入した概数を記入する数直線を提示する。	◇表したい位を決めて四捨五入をすればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言①>
	1	○県内の市(前橋、高崎、伊勢崎、太田)の人口を上から1桁や2桁などの概数で表す方法を考える。	○目的に応じて四捨五入する位を変えればよいことに気付けるように、「前橋と高崎、伊勢崎と太田の人口の違いが分かる」という視点を提示する。	◇伊勢崎と太田の人口の差をはっきりさせるには、上から2桁の概数で表せばよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○「以上」、「以下」、「未満」の用語の意味を知り、概数で表された数の範囲を考える。	○概数で表された数の範囲を視覚的に捉えられるように、「以上」、「以下」、「未満」を●や○で表す数直線を提示する。	◇数直線を基に、概数になるもとの数の範囲を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○サッカー場の3日間の入場者数を基に、合計人数や前日との差は、約何万人かを見積もり方を考える。	○概数に直してから計算するよさに気付けるように、計算してから概数にする方法と概数にしてから計算する方法を提示する。	◇見積もるときは数値を概数にしてから計算すればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○6ヶ月間に走った距離を求めるなどの具体的な場面から、積や商の見積もり方を考える。	○積や商を見積もれるように、いろいろな場面の問題を複数用意する。	◇概数を用いて積や商の見積もりを求めている。 <ノート①>
	1	○県別のももの収穫量について、概数を用いて棒グラフに見やすく表す方法を考える。	○資料の全ての数量を表せる目盛りの取り方を理解できるように、目盛りの記入枠や上限の入ったグラフ用紙を用意する。	◇グラフの1目盛りの大きさを基に、資料の数量を表す適切な概数をグラフに書き入れたり、説明したりしている。 <ノート①>
	1	○買い物の場面から、代金を切り上げて見積もる場合と切り捨てて見積もる場合を考える。	○目的に応じて切り上げたり、切り捨てたりして見積もれるように、およその合計金額を求める場面と少なくとも得られる福引きの枚数を求める場面を提示する。	◇目的に応じて切り上げたり、切り捨てたりして見積もる根拠を記述したり説明したりしている。 <ノート②>
・まとめ	2	○身の回りから概数を探したり、概数を使って学校紹介をしたりする。	○進んで概数を用いたり、和差積商を見積もろうとしたりできるように、地図帳の資料や学校に関わる資料を提示する。	◇進んで概数を用いたり、和差積商を見積もっている。 <ノート・行動③>
・まとめ	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「がい数」「四捨五入」「以上」「以下」「未満」「見積もり」「切り上げ」「切り捨て」 ・新聞記事をまとめた資料がカリ管データにある。 ・四捨五入では「○の位で四捨五入する」「四捨五入して○の位までの概数にする」などの指示の仕方があるので、どちらの表現でも適切に処理できるようにする。				

単元	8 2けたでわる計算		9, 10月(17時間)
目標	2・3位数を2位数でわる除法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(3)ア(7)(1)(ウ)(エ)イ】
評価規準	(①知・技)「」2・3位数を2位数で割る除法の計算の仕方を理解している。 (②思・判・表)除数が1位数の除法を基に、2・3位数を2位数で割る除法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度)既習の除法の計算を基に、 $(2・3位数) \div (2位数)$ の計算の仕方を考えようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○154枚の折り紙を34枚ずつ分ける計算の仕方を考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 2けたでわるわり算の計算の仕方を考えよう	○2位数でわる除法の計算に対する必要感をもてるように、154枚の折り紙を用意する。
解決していく	1	○ $60 \div 20$ や $150 \div 30$ のような何十、何百を何十でわる除法の計算の仕方を考える。	○10を単位とした計算の仕方に気付けるように、お金の模型や東カードを提示する。
	1	○ $170 \div 50$ のような余りのある除法の計算の仕方を考える。	○(何十) \div (何十)の余りは、10を基にした数であることに気付けるように、10円の模型を用いて170を50ずつに分ける場面を演示する。
	1	○ $63 \div 21$ のような2位数 \div 2位数の計算の仕方を考え、筆算の仕方を考える。	○2位数 \div 2位数の計算の仕方に気付けるように、お金図や東カード図の書き方を例示する。
	1	○ $87 \div 21$ のような余りのある2位数 \div 2位数の筆算の仕方を考え、検算をして商と余り確かめる。	○正しく検算をすることができるように、「わられる数」「わる数」「商」「余り」のカードを提示し、操作しながら検算の仕方を確認する。
	1	○ $95 \div 34$ のような2位数 \div 2位数の過大商の修正の仕方や筆算の仕方を考える。	○過大商の修正の仕方に気付けるように、95と34の概数を基にして立てた $100 \div 30$ の式を提示する。
	1	○ $84 \div 27$ のような2位数 \div 2位数の過小商の修正の仕方や筆算の仕方を考える。	○過小商の修正の仕方に気付けるように、84と27の概数を基にして立てた $80 \div 30$ の式を提示する。
	1	○2位数 \div 2位数の計算練習をする。	○正確に2位数 \div 2位数の計算をできるように、仮商を求める式や検算を確認する時間を確保する。
	1	○ $543 \div 62$ のような、商が1位数になる3位数 \div 2位数の筆算の仕方を考える。	○商が1位数であることに気付けるように、仮商を求める式 $50 \div 60$ を提示する。
	1	○ $432 \div 18$ のような、商が2位数になる3位数 \div 2位数の筆算の仕方を考える。	○商が2位数であることに気付けるように、仮商を求める式 $43 \div 18$ を提示する。
	1	○ $1768 \div 34$ や $875 \div 125$ 、 $9282 \div 714$ のような、4位数 \div 2・3位数、3位数 \div 3位数の筆算をする。	○4位数 \div 2・3位数、3位数 \div 3位数の筆算を正確にできるように、いろいろな仮商を求める式を提示する。
			評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇2位数でわる除法の計算について、記述したり、発言したりしている。<ノート・発言③> ◇10を単位とすると、 $6 \div 2$ や $15 \div 3$ のような計算の仕方でも商を求められることを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇(何十) \div (何十)の余りは、10を基にした数である根拠を記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇63に含まれる21の数を調べることを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇検算をして正しい商と余りを確認することができる。<ノート①> ◇概数で求めた仮商より1小さくすればよいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇概数で求めた仮商より1大きくすればよいことを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇正確に2位数 \div 2位数の商を求めている。<ノート①> ◇仮商が1位数になる根拠を記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇仮商が2位数になる根拠を記述している。<ノート②> ◇自分なりに仮商を立てて、正確に商を求めている。<ノート①>

	1	○3・4位数÷2・3位数の計算練習をする。	○3・4位数÷2・3位数の計算を正確にできるように、仮商を求める式や検算を確認する時間を確保する。	◇正確に3・4位数÷2・3位数の商を求めている。 <ノート①>
	1	○600÷200のような除法の簡単な計算の仕方を考える。	○被除数と除数を同じ数で割ってもよいということに気付けるように、百の束6つを2つずつに分ける操作を例示する。	◇被除数と除数を100や1000で割ると簡単に計算できるということを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○200÷25のような除法の簡単な計算の仕方を考える。	○25を4倍したり、50を2倍したりすると100になることに気付けるように、25円や50円のお金図を提示する。	◇被除数と除数を4や2でかけると簡単に計算できるということを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
ま ・と 生 め か る す	2	○ドイツやインドなどの外国の除法の筆算の仕方を知り、練習問題を通して日本の筆算の仕方と比較する。	○外国における除法の筆算に関心をもつことができるように、複数の外国の除法の筆算を一覧にした資料を提示する。	◇日本や外国の除法の筆算のよさを自分なりに記述している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用語・記号 「商の見当を付ける」「けん算」 ・わり算のきまり $(a \times m) \div (b \times m) = c, (a \div m) \div (b \div m) = c$ について本単元でまとめ、小数、分数の除法で活用できるようにする。 ・第15時の外国の筆算の資料は、カリ管データに保存されている。(H26) <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>筆算の仕方を考える際には、「わり算の筆算(1)」を想起するように促すと共に、お金の模型やおはじき、束カードなどを用いて、百の位の数をおろして十の位と合わせて考える操作活動を取り入れるとよい。 段階的に念頭操作をするように促し、暗算で処理できるようにしたい。</p> </div>				

単元	9 変わり方		10月(7時間)
目標	伴って変わる2つの数量の関係について考察し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：C(1)ア(ア)イ】
評価規準	(①知・技) 伴って変わる2つの数量の関係を調べるときは、表や式、グラフを用いるとよいことを理解している。 (②思・判・表) 2つの数量の関係について規則性を考えたり、変わり方に着目したりしている。 (③主体的態度) 2つの数量にある関係に関心を持ち、その関係を進んで調べようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○正三角形を横に並べたときの辺の数の変化の仕方 や、周りの長さが一定の長方形の縦の長さを変化 させたときの横の長さの変化の仕方を調べ、発表 し合い、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 伴って変わる2つの量について調べよう	○2つの数量にある関係に関心をもてるように、色板を並べたり、一定の長さのひもを使ったりして正三角形や長方形を提示する。
解決していく	1	○正方形の一辺の長さを1cmから10cmまで変化させたときの一辺の長さとの関係について、表に数を記述したり、式を立てたりしている。 <ノート②>	○伴って変わる2つの数量の関係を表す表を提示する。
	1	○徐々に水が減っていくときの時間と深さの変化を折れ線グラフに表し、変化の仕方を調べる。	○変化の規則性に気付けるように、「表とグラフの変化の仕方」という視点を提示する。
	1	○いろいろな問題場面での伴って変わる2つの数量の関係を調べる。	○伴って変わる2つの数量の関係を表や式、グラフに表せるように、伴って変わる2つの数量に規則性のあるいろいろな問題場面を用意する。
まとめ生かす	2	○身の回りから伴って変わる2つの数量の関係を調べる。	○進んで身の回りの伴って変わる2つの数量について調べられるように、階段の段数と下からの高さ、水槽に水を入れた時間と深さ、ジュースの本数と値段などの問題場面を例示する。
	1	○まとめのテストを行う。	○6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】			

単元	10 倍とかけ算, わり算		10,11月(7時間)	
目標	倍とかけ算, わり算の関係について考察し, 進んで生活や学習に活用する。		【指導事項: C(2)ア(7)イ】	
評価 規準	(①知・技) 何倍かをした大きさを求めるときやもとにする大きさを求めるときは除法, 何倍かをもとめるときは乗法を用いることを理解している。 (②思・判・表) 2つの数量の関係を捉え, 立式の仕方を考えている。 (③主体的態度) 倍とかけ算, わり算の関係に関心を持ち, 割合を用いた比べ方を進んで調べようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○問題場面を表しながらかけ算かわり算を考え, テープ図を知り, 単元のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 単元のめあて _____ 問題場面の数量の関係を捉え, かけ算かわり算を考えよう </div>	○問題場面の立式の仕方について関心をもてるように, 何倍かをもとめる問題場面, 何倍かした大きさを求める問題場面, もとにする大きさを求める問題場面を用意する。	◇問題場面の立式の仕方について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言③>
	1	○問題場面を表しながらかけ算かわり算を考え, テープ図を知り, 単元のめあてをつかむ。	○問題場面の立式の仕方について関心をもてるように, 何倍かをもとめる問題場面, 何倍かした大きさを求める問題場面, もとにする大きさを求める問題場面を用意する。	◇問題場面の立式の仕方について, 疑問点やこれから考えたいことを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○何倍かした大きさを求める問題場面の立式の仕方を考える。	○何倍かを求める問題場面は, もとにする大きさを1とみることに気付けるように, もとにする大きさを表したテープ図を提示する。	◇比較量を求めるときは, 乗法を用いることを記述している。 <ノート①>
	1	○何倍かを求める問題場面の立式の仕方を考える。	○何倍かを求める問題場面は, 除法になることを理解できるように, 2つの数量の関係を表したテープ図と数直線を提示する。	◇倍を求めるときは, 乗法を用いることを記述している。 <ノート①>
	1	○もとにする大きさを求める問題場面の立式の仕方を考える。	○基準量を求める問題場面は, 比較量の1にあたる大きさを求めていることに気付けるように, 比較量を表したテープ図を提示する。	◇基準量を求めるときは, 乗法を用いることを記述している。 <ノート①>
	1	○ゴムの伸びを比べる方法を考え, 割合を知る。	○割合を基にした比べ方に気付けるように, 伸ばす前と後のテープ図を提示する。	◇整数倍(割合)を用いて数量の関係を比べることができることを記述している。 <ノート②>
まとめ か す	1	○かけ算やわり算の問題場面をつくり, 解き合う。	○場面を工夫して進んで問題をつくれるように, 何倍かをもとめる問題場面, 何倍かした大きさを求める問題場面, もとにする大きさを求める問題場面をを例示する。	◇進んで問題をつくったり, 友達の問題を解いたりしている。 <ノート・行動③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>
【備考】				

単元	11 小数		11月(13時間)
目標	1/1000の位までの小数の表し方や加減法の計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(4)ア(イ)ウイ】
評価規準	(①知・技) 1/1000の位までの小数の表し方や位取りの原理、加減法の計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 既習の1/10の位の小数や整数の仕組みを基に、1/100の位、1/1000の位の小数の表し方や加減法の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) 1/1000の位までの小数に関心をもち、進んで表したり計算したりしようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○Lますを用いて、1.5Lのペットボトルに入った水の量を調べ、単元のめあてをつかむ。 0.1より小さい小数のしくみを調べよう	○小数第一位より小さい小数があることに気付けるように、1.5Lより少し多く水の入ったペットボトル容器を提示する。
解決していく	1	○LますとdLますを用いて、1.5Lのペットボトルに入った水の量を調べ、1/100の位までの小数の表し方を考える。	○1/100の位までの小数の表し方に気付けるように、LますやdLますの図を用意する。
	1	○幅跳びや道のりの場面から、いろいろな長さを1/1000の位までの小数で表す。	○小数を用いた、長さの単位換算ができるように、1mや1kmとしたテープ図を提示する。
	1	○1, 0.1, 0.01, 0.001の関係を調べ、「1/100の位」「1/1000の位」「小数第二位」「小数第三位」を知る。	○1/1000の位までの小数の仕組みに気付けるように、1, 0.1, 0.01, 0.001を表した正方形の面積図を提示する。
	1	○1/100の位までの小数について、相対的な大きさを表したり、大小を比較したりする。	○視覚的に小数の大きさを捉えられるように、0.01を基にした数直線を提示する。
	1	○1/100の位までの小数のいろいろな表し方を考える。	○1/100の位までの小数のいろいろな表し方に気付けるように、数直線と「0.00は～数です」という言葉を提示する。
	1	○1/100の位までの小数同士の加法の計算を考え、筆算の仕方を考える。	○加法における十進位取り記数法に気付けるように、小数点を除いた整数の加法の仕方を例示する。
	1	○小数点以下の桁数が異なる加法や和の末尾が0の加法の筆算の仕方を考える。	○和の末尾の0は省略することを理解できるように、簡潔性や明瞭性の視点を提示する。
	1	○1/100の位までの小数同士の減法の計算を考え、筆算の仕方を考える。	○減法における十進位取り記数法に気付けるように、小数点を除いた整数の減法を例示する。
	1	○小数点以下の桁数が異なる減法の筆算の仕方を考える。	○位をそろえる必要性に気付けるように、位をそろえた筆算と位をそろえていない筆算を提示する。
1	○いろいろな小数の加減法の計算をする。	○いろいろな小数の加減法の計算を正確にできるように、複数の加減計算の式や文章問題に取り組む時間を確保する。	
まとめる・生かす	1	○単位換算についての問題を作り、解き合う。	○進んでいろいろな単位の問題を作れるように、長さの単位やかさの単位、重さの単位を例示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇既習の小数第一位より小さい小数について、記述したり、発言したりしている。<ノート・発言③> ◇0.01Lの幾つ分という言葉を用いて、1/100の位までの水のかさを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇1cm=0.01m, 1m=0.001kmと記述している。<ノート①> ◇1, 0.1, 0.01, 0.001それぞれの幾つ分として、2.345のような小数の仕組みを記述したり、説明したりしている。<ノート・発言②> ◇小数の大小の根拠を、0.1や0.01の幾つ分を基にして記述したり、発言したりしている。<ノート・発言①> ◇0.1や0.01の幾つ分や、起点となる数より幾つ大きい(小さい)などの表し方を記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇0.01の幾つ分で考えれば、整数の加法と同様に計算できることを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②> ◇0の意味を基に、和の末尾の0を省略することを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言①> ◇0.01の幾つ分で考えれば、整数の減法と同様に計算できることを記述している。<ノート②> ◇位をそろえる必要性を記述したり説明したりしている。<ノート・発言①> ◇正確に小数の加減計算の和や差を求めている。<ノート①> ◇いろいろな単位を用いて単位換算についての問題を作ったり、進んで友達の問題を解いたりしている。<ノート③> ◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>			
【備考】 ・用語・記号 「1/100の位」「1/1000の位」「小数第二位」「小数第三位」			

単元	12 面積		12月(15時間)	
目標	長方形と正方形, それらの複合図形の面積の求め方を理解し, 求積公式を用いて面積を求める。		【指導事項: B(4)ア(ア)(イ)イ】	
評価 規準	(①知・技) 面積の単位や測定の意味, 面積の求め方を理解する。 (②思・判・表) 長さなどの測定の仕方と結び付けて, 面積の求め方を考える。 (③主体的態度) 面積に関心をもち, 進んで面積を求めようとする。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○『陣取りゲームⅠ』をし, 広さの比べ方を考え, 単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 広さの比べ方や表し方を考えよう	○広さの比べ方や表し方に関心をもてるように, 大きさの異なる正方形や長方形のマスが複数ある陣取りゲームの学習プリントを用意する。	◇広さの比べ方や表し方について, 疑問点や自分なりの考えを記述したり, 発言したりしている。 <学習プリント・発言③>
	解決していく	○『陣取りゲームⅡ』をし, 正確な広さの比べ方を考える。 ○「面積」と「 cm^2 」を知り, 面積を「 cm^2 」を用いて表す。 ○正方形や長方形でない図形の面積の求め方を考える。 ○方眼上にかかれていない長方形や正方形の面積の求め方を考える。 ○面積と1つの辺の長さが分かっているとき, もう一方の辺の長さの求め方を考える。 ○長方形と正方形が複合した図形の面積の求め方を考える。 ○いろいろな図形の面積を求める。 ○教室のおよその面積の求め方を考え, 「 1m^2 」を知り, 「 $1\text{m}^2=10000\text{cm}^2$ 」の関係を捉える。 ○群馬県や前橋市のおよその面積の求め方を考え, 「 1km^2 」を知り, 「 $1\text{km}^2=1000000\text{cm}^2$ 」の関係を捉える。 ○大きな単位として「a」「ha」を知り, 「 cm^2 」「 m^2 」「a」「ha」「 km^2 」の単位の関係を調べる。	○マスの数を数えれば正確に比べられるということに気付けるように, 全てのマスが合同な正方形である学習プリントを用意する。 ○「 cm^2 」を用いて面積を正確に表せるように, 『陣取りゲームⅡ』の中の2つの図形と正方形の 1cm^2 カードを提示する。 ○倍積変形や等積変形に気付けるように, 図形が方眼にかかれた学習プリントや拡大した模型を用意する。 ○縦の長さ×横の長さをかけると面積を求められることに気付けるように, 「 1cm^2 の幾つ分」という視点を提示する。 ○除法で面積を求められることに気付けるように, (縦の長さ)×(横の長さ)=(面積)の求積公式を提示する。 ○複合図形の面積の求め方に気付けるように, 折ったり切ったりできる複合図形のカードを用意する。 ○求積公式を用いて面積を正確に求められるように, 必要な辺の長さを確認する時間や練習問題に取り組む時間を十分に確保する。 ○「 m^2 」を用いることよさに気付けるように, 教室の縦と横の長さをcmやmで表したものを提示する。 ○「 km^2 」を用いることよさに気付けるように, 縮尺の表示された地図帳を用意する。 ○それぞれの単位の関係を整理できるように, 1辺の長さが1cm, 10cm, …と10倍ごとに変わる正方形の面積が書き込める学習プリントを用意する。	◇任意単位を用いて, 面積を数値化して比べている。 <学習プリント②> ◇ 1cm^2 の幾つ分として面積を表している。 <学習プリント①> ◇どのような形でも, 1cm^2 の幾つ分で面積を表せることを記述している。 <学習プリント②> ◇縦の長さ×横の長さをかけると 1cm^2 の正方形の幾つ分で面積を表せることを記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言②> ◇除法を用いれば面積から1辺の長さを求められることを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇長方形や正方形を基にすれば複合図形の面積が求められることを記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言②> ◇求積公式に必要な長さを選択し, 長方形や正方形の面積を正確に求めている。 <学習プリント①> ◇1辺が1mの正方形を基にして面積を表すよさを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇1辺が1kmの正方形を基にして面積を表すよさを記述したり, 発言したりしている。 <ノート・発言②> ◇ cm^2 , m^2 , a, ha, km^2 の相互の面積や1辺の長さの倍率を記述している。 <学習プリント①>

	1	○畑や牧場の面積を「a」「ha」を使って表す。	○「m ² 」から「a」や「ha」に単位換算できるように、「1 a = 100 m ² 」, 「1 ha = 10000 m ² 」を提示する。	◇「○aは100 m ² の○個分」や「□haは10000 m ² の□個分」を記述したり, 説明したりしている。 <ノート・発言①>
・ま 生と かめ する	2	○体育館の床や校庭のサッカーコートなどの身の回り にある場所の面積を求める。	○いろいろな場所の面積を進んで求められるように, メジャ ーと電卓をグループに1つずつ用意する。	◇面積の単位を用いて, 進んで面積やその求め方を記述 している。 <ノート③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について, 正答を出している。 <テスト①②>

【備考】

- ・用語・記号 「面積」「平方センチメートル」「cm²」「公式」「平方メートル」「m²」「平方キロメートル」「km²」「アール」「a」「ヘクタール」「ha」
- ・単位関係 「1 m² = 10000 cm²」「100 m² = 1 a」「10000 m² = 1 ha」「1 km² = 1000000 m²」など

『陣取りゲーム』は2人1組で対戦する。最初の陣地を決め, ジャンケンで10回繰り返し, 勝者が自分の陣地に接する四角形1つを陣地にでき, 陣地を広く取った方を勝ちとする。『陣取りゲームⅠ』では, 2~4 cm²の長方形で全ての陣地を表すことができるように設定する。『陣取りゲームⅡ』では, 1 cm²の正方形で全ての陣地を表すことができるように設定する。

単元	そろばん			1月(3時間)
目標	そろばんの仕組みについての理解を深め、珠の操作による計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。			【指導事項：A(8)ア(ア)イ】
評価 規準	(①知・技) そろばんを使った大きい数や小数などの表し方や、加減計算の仕方を理解している。 (②思・判・表) 5や10の構成を基にした数の入れ方、払い方を考えている。 (③主体的態度) そろばんの仕組みと十進位取り記数法と関連付けてみようとし、計算に活用しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
	1	○そろばんの各部分の名称を確認し、一億の位などの整数の位や小数の位の位置を知り、そろばんで表された数を読んだり、表したりする。	○進んで大きな数や小数をそろばんに表したり、読んだりできるように、珠のないそろばんや数を表したそろばんの拡大シートを提示する。	◇ペアの相手が出した問題を進んでそろばんに表したり、読んだりしている。 <そろばん・発言③>
	1	○波及的な繰り上がりや繰り下がりのある加減計算の運珠法を確認し、練習する。	○波及的な繰り上がりや繰り下がりのある加減計算の運珠法を習熟できるように、いろいろな問題を提示し、練習する時間を十分に確保する。	◇正確にそろばんを使って、波及的な繰り上がりや繰り下がりのある加減計算をしている。 <ノート①>
	1	○そろばんを使った大きな数の表し方や小数の加減計算の仕方を考える。	○小数の加減計算の仕方に気付けるように、既習の整数の運珠法を提示する。	◇小数も整数の時と同様に運珠すればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
【備考】 ・そろばんは、算数準備室にある。 ・大きい数については億や兆の単位までの数、小数については1/100の位までの数を表すことができるようにする。				

単元	13 小数と整数のかけ算・わり算		1月(17時間)	
目標	小数の乗除法の意味と計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：A(4)ア(ア)(イ)(エ)イC(2)ア(ア)(イ)イ】	
評価規準	(①知・技) (小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の意味や計算の仕方を理解する。 (②思・判・表) 整数の乗除法の計算の仕方を基に、(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えている。 (③主体的態度) (小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算に関心を持ち、計算の仕方を整数の計算と関連付けようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つかむ	1	○「リボン取りゲーム1」をして、0.2mのリボンをグループで集めた全体の長さや1人分の長さを考え、単元のめあてをつかむ。 単元のめあて 小数のかけ算やわり算の仕方を考えよう	○(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算に関心をもてるように、0.2mの紙テープを複数用意する。	◇(小数)×(整数)や(小数)÷(整数)の計算の仕方について、疑問点やこれから考えていくことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○4.2mのリボン3本分の長さの求め方を考え、(小数)×(整数)の筆算の仕方を考える。	○整数の乗法の計算の仕方を基にした、(小数)×(整数)の筆算の仕方に気付けるように、 42×3 の筆算を提示する。	◇0.1の幾つ分として見ると、整数の乗法として考えられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ 4.2×13 の筆算の仕方を考える。	○被乗数が小数第1位までの小数で、乗数が2位数までの整数の乗法の筆算の仕方に気付けるように、13を10と3に分けたさくらんぼ図を提示する。	◇筆算の中に 4.2×10 と 4.2×3 の計算があることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ 2.65×7 の筆算の仕方を考える。	○被乗数が小数第2位までの小数で、乗数が2位数までの整数の乗法の計算の仕方に気付けるように、「0.01の幾つ分」を視点として提示する。	◇0.01の幾つ分として見ると、整数の乗法として考えられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○7.2mのリボンを3等分した1人分の長さの求め方を考え、(小数)÷(整数)の筆算の仕方を考える。	○整数の除法の計算の仕方を基にした、(小数)÷(整数)の筆算の仕方に気付けるように、 $72 \div 3$ の筆算を提示する。	◇0.1の幾つ分として見ると、整数の除法として考えられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ $7.62 \div 6$ の筆算の仕方を考える。	○被除数が小数第2位までの小数で、除数が1位数までの整数の除法の筆算の仕方に気付けるように、「0.01の幾つ分」を視点として提示する。	◇0.01の幾つ分として見ると、整数の除法として考えられることを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ $3.78 \div 7$ の筆算の仕方を考える。	○一の位に商がたたないときの筆算の仕方に気付けるように、 $3 \div 7$ の商と余りを視点として提示する。	◇商の一の位に0を書き、小数点を打ってから計算すればよいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○ $52.9 \div 23$ の筆算の仕方を考える。	○(小数)÷(2位数の整数)の筆算の仕方に気付けるように、 $529 \div 23$ の筆算を提示する。	◇仮商を立てて計算することを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○被乗数が小数第3位までの小数、乗数が2位数までの整数の乗法と、被除数が小数第2位までの小数、除数が2位数までの整数の除法の計算練習をする。	○被乗数が小数第3位までの小数で、乗数が2位数までの整数の乗法と、被除数が小数第2位までの小数、除数が2位数までの整数の除法の計算が正確にできるように、複数の問題を提示し、計算に取り組む時間を確保する。	◇既習の整数の乗法(除法)と同様に筆算し、被乗数(被除数)にそろえて積(商)の小数点を正確にうっている。 <ノート①>
	1	○21.4mのリボンを4mずつに分ける場面から、余りのある除法の計算の仕方を考える。	○問題場面に応じた余りを正確に求められるように、21.4mを表したテープ図を4mずつに分ける様子を演示する。	◇正確な余りを記述している。 <ノート①>
1	○5.4mのリボンを4等分する場面から、割り	○割り進みの筆算の仕方に気付けるように、「0.1の幾つ分」	◇余りを0.1の幾つ分や0.01の幾つ分として見るとさらに	

		進みの計算の仕方を考える。	や「0.01の幾つ分」を視点として提示する。	分けられることを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
	1	○ $2 \div 8$ や $10 \div 17$ などの割り進みや商が概数になる場合の計算練習をする。	○ 割り進みや商が概数になる場合の計算が正確にできるように、複数の問題を提示し、計算に取り組む時間を確保する。	◇ 整数 \div 整数を、割り切れるまで計算したり、 $1/10$ の位までの概数で表したりしている。 ＜ノート①＞
	1	○ 60cm, 45cm, 15cmの赤, 緑, 青のテープの長さは30cmの黄のテープの長さの何倍かの求め方を考える。	○ 求倍の立式の仕方に気付けるように、テープ図と数直線を提示する。	◇ 基にする長さの幾つ分かを求めることを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
	2	○ 小数倍が用いられる場面の練習問題に取り組む。	○ 正確に基準量や小数倍を求める式を立てて計算できるように、基準量や小数倍を求める問題場面が複数書かれた学習プリントを用意する。	◇ 正確に基準量や小数倍を求める式を立てて計算し、答えを求めている。 ＜学習プリント①＞
ま ・と 生め かる す	1	○ 「リボン取りゲーム2」をする。	○ $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ や $(\text{小数}) \div (\text{整数})$ の計算を活用できるように、1.25cmの紙テープを複数用意する。	◇ $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ や $(\text{小数}) \div (\text{整数})$ の計算して、グループで集めた全体の長さや1人分の長さを求めている。 ＜ノート・行動③＞
	1	○ まとめのテストを行う。		◇ 6割以上の問題について、正答を出している。 ＜テスト①②＞
【備考】 ・ 計算の仕方を説明する際は、カリ管室にある小数の束カードを使うとよい。				

単元	14 分数		2月(13時間)	
目標	1より大きい分数の意味や表し方の理解を深め、同分母分数の加減計算の仕方を考え、進んで生活や学習に活用する。 【指導事項：A(5)ア(7)(イ)イ】			
評価規準	(①知・技) 真分数、仮分数、帯分数の意味や表し方、大小比較の仕方、仮分数や帯分数を含む同分母分数の加減計算の意味と仕方を理解している。 (②思・判・表) 1より大きい分数の仮分数や帯分数への表し方を考えたり、既習の整数の加減計算の仕方を基に仮分数や帯分数を含む同分母分数の加減計算の仕方を考えたりしている。 (③主体的態度) 1より大きい分数を、仮分数や帯分数で表すことよさに気付き、同分母分数の大小比較や加減計算に進んで生かそうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	
評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」				
つかむ	1	○1/3 mのリボンを基に、分数の表し方を考え、学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 単元のめあて 1より大きい分数をくわしく調べよう </div>	○1より大きい分数に関心をもてるように、1/3 mや1 m, 5/3 m, 11/3 mなどのリボンを提示する。	◇1より大きい分数について、疑問点やこれから考えたいことを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言③>
解決していく	1	○1より大きい連続量を分数を用いて表し、「真分数」「仮分数」「帯分数」を知る。	○真分数や仮分数、帯分数の意味に気付けるように、1/3 mや3/4 m, 3/3 m, 5/3 m, 11/4 mなどの長さとして「にているところ」「ちがうところ」という視点を提示する。	◇分子の数や整数部分に着目して、真分数と仮分数、帯分数の違いを記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○仮分数と帯分数の相互変換の仕方を考える。	○仮分数と帯分数を相互に変換できるように、仮分数や帯分数を記入する図や数直線を提示する。	◇仮分数と帯分数を相互に変換している。 <ノート①>
	1	○分母が2～10までの真分数の中で、大きさの等しい分数を見付ける。	○大きさの等しい分数に気付けるように、分母が2～10までの真分数カードと数直線を提示する。	◇2つの真分数の大きさが等しい根拠を記述したり、発言したりしている。 <ノート・発言②>
	1	○同分子分数の大小を比べる。	○同分子分数の大小関係や相等に気付けるように、1/2や1/3ごとなどに目盛りの入った複数の数直線を提示する。	◇数直線を用いて、同分子のときは分母が大きくなると小さくなることを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
	1	○同分母の仮分数や帯分数の大小を比べる。	○同分母の仮分数や帯分数の大小関係を正確に表せるように、仮分数と帯分数の相互変換の仕方を提示する。	◇同分母の仮分数や帯分数の大小関係を正確に表している。 <ノート①>
	2	○仮分数を含む同分母分数の加減計算の仕方を考える。	○分子同士をたすという同分母分数の加減計算を正確にできるように、真分数同士の加法の計算の仕方を提示する。	◇分子同士をたしたり引いたりして、正確に和や差を求めている。 <ノート①>
	2	○帯分数を含む同分母分数の加減計算の仕方を考える。	○帯分数を含む同分母分数の加減計算の仕方に気付けるように、仮分数と帯分数の相互変換の仕方を提示する。	◇仮分数と帯分数の相互変換を行えば加減計算ができることを記述したり、発言したりしている。<ノート・発言②>
・ま生とかめする	2	○同分母分数の加減計算が用いられる問題を作り、解き合う。	○進んで同分母分数の加減計算が用いられる問題を作れるように、リボンの長さや飲み物のかさなどの問題場面を例示する。	◇進んで問題を作り、友達と解き合っている。 <ノート・行動③>
	1	○まとめのテストを行う。		◇6割以上の問題について、正答を出している。 <テスト①②>
【備考】 ・用語・記号 「○分の△」「分数」「分母」「分子」「真分数」「仮分数」「帯分数」				

単元	15 直方体と立方体		3月(12時間)
目標	直方体と立方体の概念とその展開図や見取図を理解し、進んで生活や学習に活用する。		【指導事項：B(2)ア(7)(1)(ウ)イ, (3)ア(7)イ】
評価標準	①(知・技) 直方体と立方体の面や辺、頂点の数、面と辺の垂直と平行の関係、展開図や見取図を理解している。 ②(思・判・表) 直方体と立方体の構成要素に着目して、直方体と立方体の性質を考えている。 ③(主・体的態度) 直方体と立方体の性質を、既習の図形の性質を基にして調べようとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つかむ	1	○4種類の展開図の中から箱の形になるもの(直方体と立方体の形)を探し、直方体と立方体を知り、単元のめあてをつかむ。 直方体と立方体の特徴を調べよう	○直方体や立方体に関心をもてるように、身の回りにあるいろいろな箱の展開図を提示する。
解決していく	1	○直方体と立方体を、面や辺、頂点の数を観点到調べ、性質をまとめる。	○直方体と立方体の性質に気付けるように、直方体と立方体の模型を用意する。
	1	○直方体の展開図のかき方を考える。	○直方体の展開図のかき方に気付けるように、直方体になる6枚のポリドロンを用意する。
	1	○立方体の展開図のかき方を考える。	○立方体の展開図がかけられるように、前時でかいたいろいろな直方体の展開図を提示する。
	1	○直方体と立方体の面と面、辺と辺の交わり方や並び方を調べて、面と面、辺と辺の垂直や平行を知る。	○面と面、辺と辺の垂直や平行に気付けるように、直方体と立方体のモデルと「面の垂直」「面の平行」「辺の垂直」「辺の平行」という視点を提示する。
	1	○直方体と立方体を、面と辺の垂直や平行を観点到調べ、性質をまとめる。	○直方体と立方体の、面と辺の垂直や平行の性質を理解できるように、直方体と立方体の、面と辺の垂直や平行の数をまとめる表のある学習プリントを用意する。
	1	○直方体と立方体の見取図のかき方を知り、いろいろな直方体や立方体の見取図をかき。	○直方体や立方体の見取図を正確にかけるように、一部の縦、横、高さだけがかけられた未完成の見取図を提示する。
	1	○平面上や空間にある点の位置の表し方を考える。	○平面上や空間にある点の位置の表し方に気付けるように、2つまたは3つのヒントのある宝島の地図を提示する。
まとめる・生かす	1	○向かい合う目の和が7になるような、1辺が3cmのさいころを作る。	○1辺が3cmのさいころを正確に作れるように、工作用紙を人数分用意する。
	2	○好きな大きさの直方体や立方体の見取図をかいて友達と交換し、展開図をかいて作る。	○進んでいるいろいろな大きさの直方体や立方体の見取図をかいたり展開図をかいたりできるように学習してきた直方体や立方体の見取図や展開図を提示する。
	1	○まとめのテストを行う。	
【備考】号「直方体」「立方体」「平面」「展開図」「見取図」「たて、横、高さ」 ・用語に記入する前に、工作用紙を1枚程度用意しておく。 ・単元テストや授業の見直しに活用できるように、展開図の時に利用できる。 ・直方体と立方体の展開図や見取図を覚えることは、児童にとって難しいことなので、ポリドロンなどを用いて、具体物に操作しながら考えられるようにするとよい。(ポリドロンは、教室にある。)			

◇直方体や立方体について、疑問点やこれからの考えたいことを記述したり、発言したりしている。③<ノート・発言>

◇直方体や正方形の模型の面や辺、頂点の数を正しく数えている。<行動・発言②>

◇ポリドロンの操作を通して、直方体の展開図を正確にかいている。<ノート②>

◇立方体の展開図を正確にかいている。<ノート①>

◇三角定規の直角部分を立方体の隣り合う面(辺)の同じ面(辺)に当てたり、同じ面(辺)に当てたりして、面と面、辺と辺の平行を記述したり、発言したりしている。②<ノート・発言>

◇直方体と立方体の、面と辺の垂直や平行の正確な数を記述している。<学習プリント①>

◇直方体と立方体の平行な辺や垂直な辺を正確にかいたり、見えない辺を点線でかいたりしている。<学習プリント・行動①>

◇2つ(3つ)の数の組で平面(空間)にある点の位置を記述したり、発言したりしている。②<学習プリント・発言>

◇1辺が3cmの立方体の展開図をかき、組み立てたり開いたりしながら、向かい合う目の和が7になるように数字を書いている。<行動①>

◇進んで見取図や展開図をかいたり、作ったりしている。<ノート・方眼紙・行動③>

◇6割以上の問題について、正答を出している。<テスト①②>